

2017 年度 GSK 医学教育事業助成の概要

学会名

日本肺高血圧・肺循環学会

正式名称

日本肺高血圧・肺循環学会 肺高血圧症専門医育成事業

医学教育事業の概要

専門医によるセミナー、研究会、講演会活動での地域診療医/研究医の育成
地域医師による地域医師会連携での顔の見えるセミナー、研究会、講演会の実施
学会員から非学会員も対象とする e-learning システム構築

医学教育事業の対象者

主な医療関係者：医師、その他（心エコー担当の検査技師など）
対象となる医療関係者の想定人数：400人

医学教育事業の必要性

日本における肺高血圧症の認知率は低い。また、肺高血圧症診療/研究に従事する専門医は日本において希少である。2017年3月末の時点で、日本肺高血圧・肺循環学会の会員は331名であるが、地域偏在性が強い。肺高血圧症の臨床現場で医療内容の質の向上を目指すためには、まずは肺高血圧症担当医の診断能力の向上が必要である。自ら肺高血圧症診療に従事し、さらに他者への肺高血圧症教育ができるレベル到達が望ましい。それが達成可能であれば、個々の肺高血圧症患者の病態（健康状態）改善、日本全体としての肺高血圧症患者予後の改善が図れる。日本肺高血圧・肺循環学会としては各地域における専門医の育成が必要である。

医学教育事業の目的

医学教育研究事業目的は、肺高血圧症に対する適切な医学教育の継続により、下記目的の達成を目指すことである。目的の達成により、日本の肺高血圧症診療、研究の質の向上に寄与しうる。主な目的は下記のとおりである。

1. 日本肺高血圧・肺循環学会の会員数の増加
2. 肺高血圧症診療専門医の増加（肺高血圧症に関する教育可能な医師数の増加）
3. 肺高血圧症研究医の増加
4. 各医療機関における肺高血圧症診断率の向上（非侵襲的検査による）
5. 各医療機関における肺高血圧症診断率の向上（右心カテーテル検査による）

医学教育事業の計画・方法等

日本肺高血圧・肺循環学会は、多診療科（循環器内科、呼吸器内科、膠原病内科、小児循環器科、心臓血管外科、基礎領域）の融合である。2017年3月末の時点で、日本において肺高血圧症診療を担当し、全国および地域において、学会（教育講演、シンポジウムなどの企画において）、研究会、講演会、セミナーなどにおいて、肺高血圧症関係の講演の経験がある医師は領域によっては限定されている。肺高血圧症診療および研究専門医の育成には時間がかかるが、それが医学教育事業の目的であり、その方向性に向かう計画が必要である。

各地域（都道府県）で地域中核病院となるような施設での肺高血圧症診療担当医の育成が必要である。現在の専門医が地域毎に診療/講演可能な先生の育成を目指す。長期展望では、地域において顔の見えるセミナー、研究会、講演会活動をして頂くことを目標にする。

日本肺高血圧・肺循環学会が関係する地域での研究会開催の際に、学会からの要望である地域での肺高血圧症診療/研究担当医育成を目指すことを、学会として講師（理事、評議員などの専門医）に依頼する。

日本肺高血圧症・肺循環学会 e-learning を利用して、医学教育の質の向上を図る。医学教育事業は、まず学会会員を対象として会員専用 HP から行う。その後はさらに一般公開を目指す。さらに別途、市民に対する肺高血圧症の啓蒙活動も医学教育事業の根底として必要である。

医学教育事業の成果に対する情報共有について

肺高血圧症診療可能な施設、学会会員数などを学会 HP で紹介する予定である。さらに学会 HP からの情報配信などにより、医療関係者のみならず一般市民への啓蒙活動を通じて情報共有を目指す。